

令和5年度 安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

開催日時	令和5年5月16日（火）午後2時00分から午後3時00分まで
開催場所	安中市役所本庁舎2階 201会議室（安中市安中一丁目23番13号）
出席委員 （敬称略）	佐藤公俊（会長）、萩原俊一（副会長）、緑川悦子、坂田達也、神澤克彦、神戸るみ（計6人）
欠席委員 （敬称略）	岩井一夫、竹下裕理、茂木三枝（計3人）
事務局等	〔政策・デジタル推進課〕町田部長、大溝課長、佐藤課長補佐、斎藤主任、宮寺主事
傍聴者	0人

●会議内容

1 開会（午後2時00分開会）

新任委員 坂田委員 あいさつ

2 会長あいさつ

佐藤会長

3 議事〔議長：会長〕

（1）令和4年度の実施状況報告

事務局説明

事務局	<p>資料2、3により説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 資料3、総合戦略-13項以降に分野ごとに指標と目標値を定めている。この数値について、令和4年度の実施状況を報告する。 ➤ 資料2「令和4年度実施状況報告」に従って説明する。 ➤ 「展開方針1：産業を育て安心して働ける環境をつくる」について ➤ 基本目標は、「市内事業所数」「年間商品販売額」「製造品出荷額等」。「市内事業所数」「年間商品販売額」では、令和3年経済センサスの確定値が令和5年6月に公表予定のため、空欄。「製造品出荷額等」は令和3年経済センサスの確定値3,243億5百万円を記載。目標に対する4年度時点における実績は、経済センサスが5年ごとに実施されるため、不明。
-----	---

- 施策ごとの目標は、「施策 1：市内で働く人を増やす就職支援」「施策 2：農業の成長産業化」「施策 3：雇用を生み出す企業誘致の促進」「施策 4：創業や経営革新に対する支援」である。
 - 3 年度の数値の修正となるが、3 項の 3「障害就労支援施設から一般就労へ移行した人数」が、8 人から 5 人に修正。
 - 順調に推移した目標は、「障害就労支援施設から一般就労へ移行した人数」「農地中間管理機構を利用した農地集積面積」「起業・創業相談者数」など。
 - 進行に課題がある目標は、「耕作放棄地解消対策」、「6 次産業化支援件数」、企業誘致関連の事業など。なお、企業誘致関連の事業については、現在土地開発公社が整備を行っている工業団地が 5 年度末に引渡しを予定しているため、現時点ではいずれも 0 となっている。
 - 創業支援や企業誘致などを積極的に行い、雇用の創出に繋がられるよう継続的な支援を実施していくことが重要である。また、農業の分野では、新規就農者を増やす取組に加え、付加価値を高め継続的に稼ぐことができるような支援を行う必要があると考える。
-
- 「展開方針 2：安中市に行きたい・住みたい人を増やす」について
 - 基本目標は、「市内観光地における観光客数」「転入者数」。4 年度の実績は、観光客数：現時点では不明。転入者数：令和 3～4 年度累計 2,753 人。
 - 施策ごとの目標は、「施策 1：地域資源を活かした観光産業の振興」「施策 2：安中市への移住・定住支援」「施策 3：関係人口の創出・拡大」「施策 4：安中市への資金の流れの創出・拡大」。
 - 「観光情報を発信した市 SNS の 1 日の平均閲覧件数」がアーティストのライブを開催したことで上昇。「あんなか住まいりー奨励金交付件数」や「空き家バンクの契約件数」、ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の件数及び金額は順調に推移している。
 - 一方で、「着地型ツアー体験者数」がアフターコロナにより国外へと旅行者が移行していると考えられ減少している。関係人口の創出拡大分野にも伸び悩んでいる。
 - 本市の魅力や行っている施策をまず知ってもらう取組が重要であると考え。様々なツールを使って情報発信を積極的に行うとともに効果的な施策を展開する必要がある。
-
- 「展開方針 3：結婚・出産・育児を応援する環境をつくる」について
 - 基本目標は、「未婚率」「合計特殊出生率」「5 歳未満人口数」。
 - 4 年度の実績は、25～44 歳未婚率：男性 54.1% 女性で 37.4%。合計特殊出生率：1.17、5 歳未満人口数：1,302 人ともに前年度より低下。
 - 施策ごとの目標は、「施策 1：結婚のきっかけづくり」「施策 2：妊娠・出産に対する支援」「施策 3：子育てに係る経済的・精神的負担の軽減」「施策 4：男女共同参画の推進」。
 - 妊娠・出産関連では、妊婦健診の必要性を訴えたことで受診率が向上した。「保育園、

	<p>幼稚園第3子以降無料化対象児童数」も基準値である令和2年度から若干伸びている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 一方で、「婚姻件数」、「結婚新生活支援事業補助金の交付件数」は依然として少ない。 ➤ 結婚に対して経済的な不安や子育てへの不安がある市民に対して、適切な支援となっているか検証することが大切であると考えます。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「展開方針4：子どもの成長を地域で見守る環境をつくる」について ➤ 基本目標は、「子育て支援サービスに満足していない割合」「子育て施設の整備状況に満足していない割合」「子育て支援に関する情報提供体制に満足していない割合」。いずれも5年度中に実施するアンケートにて算出予定である。 ➤ 施策ごとの目標は、「施策1：子育てを楽しむ多様な交流促進」「施策2：地域で助け合う子育て環境の整備」「施策3：子どもの成長をともに支える保育環境の整備」「施策4：子どもの健康を守るための保健・医療の実施」。 ➤ スマイルパークの利用者数は60,727人と大幅に増加し、利用者の満足度も高くなっている。子どもの健康では、「乳児家庭全戸訪問事業の対象者に占める実施率」が98.2%となっており、ほとんどの家庭を訪問した。 ➤ 子どもの人数が減少している中で、保育サービスの維持が難しくなっているが、変化しつつある家庭の現状に合わせたサービスを実施していくことが必須であると考えます。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「展開方針5：人口減少に対応し自立した地域をつくる」について ➤ 基本目標は、「安中市が住みやすいと思う市民の割合」。4年度の実績はアンケートを実施しておらず、不明となっている。 ➤ 施策ごとの目標は、「施策1：市民の暮らしを守る住環境の整備」「施策2：市民の力によるコミュニティの強化」「施策3：高齢者の活力を活かした持続可能なまちづくり」。 ➤ 「道路アダプト（里親）活動団体数」は制度の周知により拡大し、道路の改良も順調である。「オンラインで可能な行政手続件数」は53件と目標値を超え実施した。シルバー人材センター利用件数は2,907件と目標値を達成した。 ➤ 一方、「施策2 市民の力によるコミュニティの強化」はどの項目も伸び悩んでいる。 ➤ 市民や地域の団体に呼びかけを行うなど協働してまちづくりを行う意識醸成が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 全体としては、順調に推移しているものと伸び悩んでいるものと分野によって差が出ている。住み良いまちづくりを推進するため、課題のある部分においてより一層取組を強化する必要があると考えます。
--	--

質疑応答等

会長	説明に対しての質問や意見はあるか。
----	-------------------

会長	農業の成長産業化は難易度が高く思える。耕作放棄地の解消は困難なまま継続していこう。一方で農地中間管理機構を利用した農地集積面積は良好な数字となっていた。中間管理事業の推進は何を指しているのか。
事務局	農地を所有者から借受け、担い手等に貸付け集約化を行っている。
会長	「6次産業化」は10年程前は大学でもよく研究されるなど話題になっていた。現在ではどのくらいの期待があるのか。
事務局	ワードとしてよく聞くようになった。令和3年度は3件の制度利用があり、相談件数は増えた。令和4年度は事業利用にはなかなか至らず1件であった。
委員	あんなに住まいりー奨励金制度を利用し、移住してくるのはどの世代か。若い世代が多いなら出生率に関係してくる。子育て支援や教育支援等に力を入れるなどの対策が考えられる。
事務局	20代は転出者が多いが、30代以上では子育て世帯が本市に戻り住宅を建て居住する、という傾向がある
委員	その数字がどういう意味を持つかが重要である。算出方法が変わっただけということや、「遊休農地面積割合」などは数字が改善しているように見えるが、遊休農地の一部が「再生不可能な農地」に移行しただけである。実際は荒れた農地が増加している可能性があるため、数字だけでなく内容の整理を行い、対策をすることが重要である。
会長	目標達成年度の令和8年度までにどのように変動するかということが地域社会の将来を見る上で重要であり、毎年数値を追うことは大事だが、正確に数値を解釈することがより大事であると感じている。
委員	学生が県外の大学などに通い、そのまま就職し転出するというケースが多いと考える。一方、転入する人は安中市に魅力を感じて移り住むか、勤務先が安中市にあるという人が多いと考える。強みや需要を捉え、施策を打っていくのも一つである。また、転職も盛んになっている中、賃金の高い地域へ転出されてしまうこともある。企業誘致などを積極的に行い安中市で余裕をもって生活ができるよう、環境を整えるということや数値の中で伸びているものを強みと捉え、将来の移住施策に反映できると良いと考える。
委員	子育て支援などに係るところで、問題の解決にはその家族の情報収集能力に大きく関係している。支援の窓口に行けるかどうかは、たくさんの情報の中から自分に合った情報をいかに選別できるかというところにあると感じる 一元的に情報がわかりやすく載ったサイトを作成する、相談窓口に行きつけるサイト設計にするといったことを重視してほしい。市の子育て支援などに満足している市民の割合が高いという結果が出たとしても、課題を抱えている人が同じように考えている訳ではない。
委員	目標値に令和3～8年度と6年間の累計目標値が記載されている項目と、単に8年度だけの目標値が記載されている項目があるが、その違いにはどのような基準があるか。
事務局	目標の性質によるものである。期間内にどう推移したかということ捉えるべき目標につ

	いては、累計の目標値に設定している。一方、終了時点でどうなっているかを捉えるべき目標は8年度時点の数値を設定している。
委員	「地域おこし協力隊退任後の定住率」の目標値が100%になっているが、市としては地域おこし協力隊には地域おこしを望むのか、定住を望むのか。
事務局	どちらでももらえるのが理想。本市では地域おこし協力隊は最長3年携わってもらおう。その後市内に転入してもらい地元住民との交流を深める役割を担っていただけなのが理想である。
委員	「お試し移住体験後に定住した世帯数」の令和3年度、4年度の実績が0人だが、課題や問題があるのか。また、今後の方向性はどうなるのか。
事務局	お試し移住体験の事業は、坂本にある「峠の湯」辺りに建っているコテージに宿泊してもらうものである。目的は、宿泊体験を通じて本市への移住を体験し、興味を持ってもらい移住に繋げるというものだが、本来の目的とは異なった利用がされるということもあった。今年度においては予算をつけておらず、現在、政策の達成に繋がる新たな事業を検討中である。
会長	お試し移住体験後、移住するまでにはタイムラグが発生するものである。計画策定後3年目、4年目以降で増えていく前提で計画を策定するため、令和5年度以降が重要となってくるのではないかと。 地域おこし協力隊の移住に関しては、目標値100%は現実的には難しい。目標を修正するプロセスが必要なのではないか。3年度、4年度の実績は良い数値だと思っている。安中市の潜在的な魅力が伝わった結果として捉えるべきである。
会長	何か追加の意見や質問はあるか。→なし 協議事項(1) 令和4年度の実施状況報告 を終了する。

(2) 第2期安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定及び安中市総合計画への統合について

事務局説明

事務局	資料No.4 により説明 国のこれまでの流れ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 少子高齢化、地方の人口減少、都市部への一極集中を是正するとともに、住みよい環境の確保と将来にわたり活力ある日本社会の維持を目指すべく ➢ 平成26年12月・・・「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定 ➢ 令和元年12月・・・第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定 ➢ 令和4年12月・・・第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を閣議決定 ➢ 「デジタル田園都市国家構想総合戦略」とは、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、デジタル技術の活用
-----	--

	<p>によって、地域の個性を生かしながら社会課題解決や魅力向上の取組を加速化・進化させることを目的としている。</p> <p>現在の本市の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 平成 28 年 3 月・・・「安中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定及び進捗管理。 ▶ 令和 3 年 3 月・・・「第 2 期安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定及び進捗管理。 <p>市の考え（今後の方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「第 2 期安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の見直し<令和 6 年 3 月 31 日付で廃止したい> ▶ 「安中市デジタル田園都市構想総合戦略」の策定を行う。<第 2 期総合戦略の基本目標や各施策は評価、検証した上で引き継ぐ> ▶ 「第 3 次安中市総合計画と一体的に策定（統合）を目指す。<本推進会議における総合戦略の報告及び評価は今回が最終回になると考える> ▶ 総合計画の各施策の体系にデジタル田園都市構想総合戦略が貫いて存在するイメージである。 ▶ 展開方針については、国のデジタル総合戦略を参考に検討中である。 ▶ 施策については、第 2 期総合戦略から引継ぎ、デジタル要素を含めた施策体系を検討している。
--	---

質疑応答等

<p>会長</p>	<p>市は合理的な計画策定及び進捗管理をすれば問題ないと思う。</p> <p>デジタル田園都市構想総合戦略の「デジタル実装の基礎となる行政改革」と総合計画の「行財政」はどう結び付けるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合計画の体系である、（少子化対策・子育て・移住定住）（健康、福祉、医療）（都市的魅力の向上・安全・安心）（教育・文化・交流・市民参加）などにおいて、計画目標を達成するためのデジタルの基盤を築くことが目的である。</p> <p>総合計画の自治体 DX とは「職員数が減少しても今までと同等の行政サービスを維持するための DX」、「地域住民が更に住みやすくなる DX」など様々な視点があり、デジタル田園都市構想総合戦略におけるデジタル基盤の項目に合致する事業については、同時に推進していきたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>総合計画とデジタル田園都市構想総合戦略の統合についてよく考えられていると思う。</p> <p>本会議に意義はあるか。→ なし</p>

	協議事項(2)第2期安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定及び安中市総合計画への統合についてを終了する。
会長	以上をもってすべての議事を終了とする。ここで議長の任を解かせていただく。

4 その他

事務局	総合戦略は第3次安中市総合計画に統合するという形になるが、当推進会議で議論いただいたことを念頭に総合計画を策定する考えである。今後も本市の行政運営に力添えを願いたい。
-----	---

5 閉会 (午後3時00分閉会)